

学校で行われる健康診断は、子どもの健康状態と成長を把握する上で大変重要な意味を持つ。社会の変化に合わせ、約20年ぶりに学校健康診断の内容が見直されようとしている中、学校歯科健康診断とその意義について注目が集まっている。子どもたちの歯と口の健康について日本学校歯科医会常務理事の齋藤秀子氏と日本臨床矯正歯科医会会長の富永雪穂氏に語り合ってもらった。



日本学校歯科医会 常務理事
埼玉県歯科医師会 常務理事
さいとう歯科医院 院長・小児歯科専門医

齋藤秀子さん

1973年東京歯科大学卒業、79年さいとう歯科医院開設。2010年日本小児歯科学会理事、11年日本学校歯科医会常務理事、13年埼玉県歯科医師会常務理事にそれぞれ就任。



公益社団法人日本臨床矯正歯科医会 会長
アルファ矯正歯科クリニック 院長

富永雪穂さん

1987年日本大学大学院歯学研究科卒業（歯学博士）、90年アルファ矯正歯科クリニック開業（静岡市）。2012年日本大学歯学部矯正歯科兼任講師、13年日本臨床矯正歯科医会会長に就任。

学校健康診断と歯科矯正

子どもの歯と口の健康のために

7〜9歳の子どもの健全な成長発育に注目しています

富永 情報の共有や連携という点は、私たち矯正歯科医にも大きなテーマです。私たちの患者さんは学齢期の子どもが多いのですが、治療が長期にわたるため、進学や転校などをきっかけに情報が途切れてしまつて懸念があります。そこで保護者や地域との連携は欠かせません。今回の改正ではどのような項目が改正されるのでしょうか。

齋藤 学校健康診断には疾病をスクリーニングし、子どもたちの健康状態を把握するという役割と、健康課題を明らかにして健康教育に役立てるという2つの役割があります。1994年に検査項目が大幅に改正され現在に至っていますが、社会環境の変化に合わせて、再び適切な改正が求められています。健康診断の結果が、その後の適切な医療につながらないケースも見受けられ、子どものプライバシーの確保に十分留意しながら、学校、学校医、学校歯科医、そして家庭、地域等が連携して子どもの健康課題に取り組みねばなりません。

健康生活全体に影響を及ぼす

齋藤 個別の検査項目では、座高や寄生虫卵検査の廃止、また現在は選択性の色覚検査について、より適切な指導をすることが決定しています。そして歯科領域では、歯と口の健康が子どもの健康生活全体に与える影響についての認識強化が求められています。むし歯や歯肉炎の結果だけでなく、歯列咬合（しれつこうごう）、顎関節、つまり歯並び、咬（か）み合わせ、顎の関節の状態などが子どもの成長や生活にどう影響を与えるか、これまで以上に重要視されています。

富永 学校歯科が担当する年齢は子どもの成長期に当たります。不正咬合など、私たち矯正歯科医がかかわる部分が表示化しやすい時期でもあります。

齋藤 そうですね。また、学校教育で力が入られている「食育」の面からも歯と口の健康が注目されています。子どもたちがきちんとものを噛（か）めないことが問題になっていますが、このようなケースは矯正歯科領域と密接

な関係がある場合が多いので、さらに歯と口の健康は、将来の生活習慣病なども関係があることも知られてきました。歯科検診を通じて、体全体や将来の健康について考えるきっかけにもなるため、歯科検診は疾病発見のためだけでなく、健康教育について考える「健康増進型」のスクリーニング」であると位置づけられています。日本臨床矯正歯科医会では特に7〜9歳くらいの低学年の子どもの歯と口の健康について注意を呼び掛けていますね。

富永 そうですね。この時期は乳歯から永久歯へ生え変わる混合歯列期と呼ばれる時期に当たります。そして生え変わる歯の土台となる顎も成長し、変化する時期です。例えば一つの小さなむし歯が、歯並び、咬み合わせ、さらに顎全体、顔のバランスというように成長に悪い影響を与える可能性もあります。これらの症状は別個に考えられがちですが、実は非常に密接に結びついています。ただ最近ではむし歯も少なくなつたことから、歯科医にかかわる機会も減りがちです。そこで学校健康診断で定期的に行う歯と口のチェックが重要性を増しています。詳しい診断が必要な部分が見つかれば矯正歯科医のアドバイスを受けていただきたいと思います。

齋藤 私たちは、7〜9歳くらいの子どものみならず、前歯の咬み合わせに注意しています。永久歯が8本くらいそろつたときの状態を診て、反対の咬み合わせになっていないか、一本だけ飛び出して

いないか、隙間があつて舌が出ているような状態になっていないかなどをチェックしています。日本学校歯科医会では咬合に関するリーフレットを作成し、学校歯科医の先生方に歯科検診時に活用していただいております。

富永 前歯の状態が受け口、反対咬合だとその後咬み合わせのずれが出る可能性があります。逆にいわゆる出っ歯の状態である上顎前突では、転んだときなどに前歯を折つてしまう危険性も高くなります。また、いつも舌が出てくる開咬という状態は、顎が変形してしまつて顎変形症を引き起こす恐れもあります。また見つけにくいケースとして、歯を支える骨の中で前歯の根っこ部分が溶けてしまつて歯根吸収という症状もあります。もう一つ、社会的な影響も見逃せません。感受性の強い学齢期において、歯列咬合や顎関節の不具合は子どもの性格形成に影響を与える恐れもありますし、さらに成長するにつれ自分に対する自信や、他人への印象などに大きな影響を及ぼすかもしれません。

齋藤 歯や口の中の健康は、保護者が子どもと一緒に直接目で見て確認できる数少ない領域です。歯や口の健康が、体の心の健康に影響を及ぼすことを一緒に考える良い機会です。でも保護者の立場では、客観的に子どもの健康状態を見極めることは難しいでしょう。

富永 だからこそ学校歯科健康診断で指摘された情報を関係者と共有することが大事です。必要に応じて専門医に相談していただきたいですね。

子どもの健全な性格形成にも貢献

齋藤 私たちは、7〜9歳くらいの子どものみならず、前歯の咬み合わせに注意しています。永久歯が8本くらいそろつたときの状態を診て、反対の咬み合わせになっていないか、一本だけ飛び出して

齋藤 私たちは、7〜9歳くらいの子どものみならず、前歯の咬み合わせに注意しています。永久歯が8本くらいそろつたときの状態を診て、反対の咬み合わせになっていないか、一本だけ飛び出して

学校歯科健康診断は健康増進型スクリーニングです

小学校低学年のうちにチェックしておきたい歯並びと咬み合わせのポイント

(日本臨床矯正歯科医会 監修)

- ☑乳歯の奥に生えてくる6歳臼歯（第1大臼歯）が正常に生えてきたかどうか
- ☑上の2本の前歯の間にいつまでも隙間が残っていないか
- ☑乳歯の前歯がいつまでも抜けずに残っていないか
- ☑側切歯（中央から2番目の永久歯）の生えてくる場所がなく、歯列からはみ出すように生えていないか
- ☑前歯の咬み合わせが上下で反対（受け口）になっていないか
- ☑上の前歯と下の前歯の間に下の唇が入り込んでしまうような前後差はないか
- ☑奥歯を咬み合わせたとき、上下の前歯の間に大きく隙間は空いていないか（生える途中の歯をのぞく）

※上記のチェックポイントのうち、心配な点があれば下記HPに掲載の矯正歯科専門医にご相談を。



日本臨床矯正歯科医会

よい咬み合わせときれいな歯並びで心身の健康を 日本臨床矯正歯科医会は「正しい矯正歯科治療」に取り組んでいます

矯正歯科治療に特化した歯科医を「オルソドントリスト」と呼びます。オルソドントリストになるには、歯科大学に6年通い、臨床研修を修了して歯科医師国家試験に合格後、大学付属病院の矯正科や矯正歯科開業医のもとで矯正学の理論と臨床に関する専門的な指導を受け、自己研さんを積む必要があります。

公益社団法人日本臨床矯正歯科医会は、矯正歯科専門開業医が所属する国内最大の団体。正会員になるには、5年以上の矯正歯科治療の臨床経験を有する矯正歯科治療の専従医であることに

加えて、所在地区の会員1人を含む会員3人以上の推薦を受けるのが条件です。同会の大きな特徴は患者本位のサポート体制。治療中に転居した場合に対応した「矯正歯科医変更に関する規程」を策定し、転居先の紹介および転居資料の提供、さらに治療費については同会の取り決め事項に沿って精算あるいは返金されます。万が一、主治医が診療できなくなった場合も、会員医院の紹介を受けて治療を続けられます。会員医院はホームページで検索できます。

矯正歯科治療中の方を対象にした笑顔のフォトコンテスト 第10回 プレース スマイル コンテスト

今年のテーマは「未来へ輝く笑顔」です



第9回 最優秀賞
「お口の中もエメラルドグリーン」

日本臨床矯正歯科医会は、矯正歯科治療中の方を対象とした笑顔のフォトコンテスト「第10回 プレース スマイル コンテスト」を実施し、2014年6月1日（日）から8月31日（日）まで作品の募集を行います。応募された作品の中から入賞作品を選定し、2014年11月に受賞者を発表します。

当コンテストの今年のテーマは「未来へ輝く笑顔」です。日ごろからキレイな歯並びになるように矯正歯科治療に希望を持って前向きに取り組んでいる、未来へ輝く笑顔を募集します。応募方法は下記HPをご参照ください。